様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：35302
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2012
課題番号：21730711
研究課題名（和文）
希望をもつ若年者のキャリア形成と早期離職に関する研究
研究課題名（英文）
A Research on Youths Cherishing a Hope: about thier Career Planning and Early Resignation
研究代表者
松尾　美香（MATSUO　MIKA）
岡山理科大学・工学部・講師
研究者番号：30521067

研究成果の概要（和文）：
若年者（18 歳から 22 歳）を対象に、希望の保有とキャリア形成およびキャリア選択の関連性について 2,103 名に質問紙調査を行い、希望を保有している若年者は 82.1%と高い割合であった。若年者が捉える希望について自由記述法を用い、KJ 法に基づいて分類した結果、「明るさ」、「行動的」、「認知」、「豊かさ」、「活力」、「対人関係」の 6 つに分類された。次いで、希望をもつ若年者を対象にキャリア形成およびキャリア選択における動機づけや生育環境について調査したところ、友人の数、家族からの期待、家族からの愛情等の関連性があり、特に希望を生み出す精神的・手段的指示が得られる人的手段としての「対人関係」、（相関係数α＝.91）、希望の発生と希望の維持・促進につながるものとしての「活力」、（相関係数α＝.88）と有意な傾向を示した。
さらに、インタビュー調査から希望を保有しているポジティブな未来志向をもっている若年者は、希望が失望しても辛く苦労した経験をふまえて次への新しい希望へと柔軟に修正できることが明らかとなり、自分のことを評価してくれたり期待してくれたりする人や自分と異なる情報をもっている人とのつながりをもつことで、早期離職の予防につながることが確認できた。

研究成果の概要（英文）：
This is a research about the relevance between young men's hopes, career formation and career selection, based on an interview test of 2,013 persons aged 18- 22. The youths who hold hopes for their career was 82.1 %, a high rate. Free writing questionnaire about their picture of the word "hope" can be classified, based upon the KJ method, into six items: "Brightness," "Aggressiveness," "Cognition," "Abundance," "Vitality," and "Interpersonal Relation." A subsequent research about their career formation and career selection shows that there is relevance between career planning and the number of their friends, expectations from their family, and love from their family. Especially there is a strong relevance between hopes and "interpersonal relations" as a means to motivate and advise them (correlation coefficient α= .91) and their "vitality" as a means to produce, keep and empower hopes (correlation coefficient α= .88).
The interview test furthermore has made clear that youths having hopes and positive

disposition to the future can flexibly recover from a disappointment and create a new hope, because they have learned from their painful experience. The research has confirmed that connections with those who evaluate and expect the youths or with those who have different kinds of interest help stop early resignation from jobs.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：希望、キャリア形成、キャリア選択、可能性

１.研究開始当初の背景

希望とキャリア選択およびキャリア形成との関係性に関する研究は皆無に等しい。その理由として考えられるのは、希望やキャリア教育に関する研究が最近になって取り組み始められたからである。“希望”は、人が生きていくうえで必要不可欠なものであり、僅かであるが心理学や労働経済学の分野に見られる。希望とは、「来るべき未来の状況に明るさがあるという感知に伴う快調をおびた感情」と定義的な表現があるものの、「感情」として捉えられるのか、あるいは「認知」として捉えられるのかをめぐる議論がなされており、今後検討すべき課題とされている。いずれの研究も、感情や社会との関係における調査に留まっている。

一方、キャリア教育は、1970 年代初頭からイギリスやアメリカにおいて実践されている。しかし、日本では近年、ニート、フリーター、早期離職者の増加等、若者の職業・自立に関する問題が社会化したことで、5 府省関係閣僚により「若者自立・挑戦プランの強化の基本方向」が取りまとめられた。その効果は生活的、教育的観点から評価されているが、若者の勤労観職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについて各方面から指摘されている。そのため、キャリア教育に関する研究の蓄積も少ないことから、教育成果を測定・評価し情報を共有化するための基盤が遅れている。

そこで、希望の保有がキャリア選択に与える影響を明らかにし、さらには、インタビュー調査を行うことで、早期離職の可能性を予測でき、キャリア教育支援に大きく貢献すると考える。

２．研究の目的

教育課題であるキャリア教育においては、意識啓発や体験の提供に偏っている。また、学校と社会が乖離している傾向があることから直接子どもたちを指導する立場にある教師も実際の企業や社会との接点が少ないため、適切なキャリア支援ができていない現

状がある。それゆえ、社会に参入する準備段階にあたる学校において教育課程と職業へのつながりは漠然としたものであり、就職選択に対する指導や介入の方策も十分でないことは否定できない。したがって、子どもたちに将来の希望や夢を抱かせ、実現させるための方策を検討し、指導内容や指導・支援内容の工夫など指導法について究明が必要であると考える。

一方、子どもたちの意識にも変化があり、不登校、ニート、無気力、学力低下等といった学習意欲や就業観に欠け、自立できない若者が増加している。そのため、将来に対する「夢」や「希望」を喪失し、働く意義を見出せず、学校を卒業しても就職しない無業者や就職しても定着しない若者の増加が大きな社会問題となっている。意欲を失い、自立しようとしない若者が増加傾向にあることが最大の課題である。

そこで、本研究では個人の希望保有がキャリア形成やキャリア選択に与える影響に焦点を当てることとする。さらには、希望の保有の状況を把握したうえで、離職の可能性を探索する。それは、希望を持つことによって、やがて願望や目的と変化し、その願望や目的を所与として、職業選択が実行できると考えられるからである。

３.研究の方法

（1）希望概念の整理と類型化を行い、キャリア形成およびキャリア選択の関係性を明らかにする

（2）アンケート調査結果を踏まえて、インタビュー調査を行い、早期離職の可能性を明らかにする。

４．研究成果

（1）希望の概念について

「私にとって希望とは・・・」「私が希望を感じるのは・・・」の２種類の記述内容から、ＫＪ法を用いて意味内容の纏り毎に１件として抽出し、学生個人の希望の内容の記述をコード化した。その後、それらについて、類似した意味内容のものをカテゴリー化した。

まず、第１のカテゴリー編成では、41 件が抽出された。それらは、＜明るい＞　＜前向き＞　＜楽しい＞　＜幸せ＞　＜輝く＞　＜嬉しい＞　＜将来＞　＜期待＞　＜見込み＞　＜可能性＞　＜安定＞　＜意志＞　＜気力＞　＜信頼＞　＜願望＞　＜楽観主義＞＜叶える＞　＜したい＞　＜もつこと＞　＜想像する＞　＜考える＞　＜期待する＞　＜苦しむ・つらい＞　＜頑張る・一生懸命＞　＜思い描く＞　＜願う＞　＜感動する＞　＜憧れのもの＞　＜音楽＞　＜信仰＞　＜友人＞　＜教師＞　＜家族＞　＜活力＞　＜支え＞　＜成績＞　＜受験・テスト＞　＜自信＞　＜成功＞　＜計画＞　＜希望をなくしたあと＞であった。

次に第２カテゴリー編成において、６件＜明るさ＞＜行動的＞＜認知＞＜豊かさ＞＜活力＞＜対人関係＞に編成することができた。

（2）希望の保有とキャリア形成およびキャリア選択について

①希望の保有

将来実現してほしいこと、させたいこととしての「希望」の有無をたずねると、2,103 名の全回答者のうち、「ある」との回答が 82.1%、「ない」という回答は 17.9%であった。約 8 割がなんらかの希望を保有していることから、ほとんどの学生が何らかの希望を保有していることが確認できた。現代の若年者は、希望が喪失していると指摘されているが、この結果から指摘されている状況とは異なることが言えることが示唆される。

次いで、学生がどのような動機づけによってキャリア選択を決定しているかについてたずねると、「人」が 78.7%、「テレビ」が 12.6%、「本・雑誌」が 2.5%、「その他」6.2%であり、「人」からの影響を強く受けていることがうかがえた。「人」と回答した学生について、どのような関係かをたずねたところ、友人や教師という回答が多く得られた。たとえば、部活動の先輩を見て憧れた、あるいはクラスメイトに触発されたというように、他者の存在からキャリア選択において希望をもつことが明らかとなった。また、教師の場合、担任、授業、部活動、生徒指導上のかかわりの場面において、キャリア選択において希望をもつことが考察できた。それは、自信を示す言葉を引き出し自己効力感を援助したり、個人の内的資源(長所)を援助したりすることが影響したものと考えられる。一方、希望を現実のものとするために、本・雑誌やインターネットで情報を集めたりするものの、直接的な動機付けには至らないようであることが確認できた。

②希望の保有と生育環境

希望保有と生育環境との関連性について調査を行った。

家族からの期待、家族からの愛情について測定したところ、家族から「あまり期待されていなかった」は、71.4%、「全く期待されていなかった」のは、61.5%、「とても期待されていた」は、85.2%、「どちらかといえば期待されていた」の74.1%であった。

家族から愛情を受けたと「どちらかといえば受けていた」は、68.5%、「全く受けていない」のは30.2%、「とても受けていた」は 70.1%、「どちらかといえば受けていない」の 49.2%である。つまり大半の学生は、子どもの頃に家族から愛情を受けたと感じていながらも、半数は家族から期待されていなかったと回答している。

家族から期待されていた学生のほうが、現在、希望を持つ割合が高い。子どもの頃に家族から期待されなかった人で希望を持っている人が61.5%にとどまっているのに対して、家族から期待されていた人は85.2%の人が希望を持っている。親の期待は、先行研究の知見から子どもの学習動機づけや人格に大きな影響を与えており、このデータにおいても 20 ポイントほどの違いがあることが確認できた。

③希望の保有と社会的ネットワーク

希望保有と社会的ネットワークとの関連性について調査を行った。友人は、損得や利害を超えたつながりであり、自分の気持ちを投影できる存在である。友人の数を測定したところ、希望があると回答したなかで、友人が多いと 82.1%回答した。つまり、希望を保有している人は友人関係に恵まれやすく社会的ネットワークを広げやすい傾向があることが確認できた。

④希望の保有と挫折経験

希望保有と挫折経験との関連では、希望をもっていると回答したなかで、79.1%が挫折経験があると回答した。挫折は、過去が今の自分にどう影響しているのかという現在の自分を位置づけ、評価するための指針になる。挫折の内容については、「学習」がもっとも多く、次いで「部活動」と続いていた。

⑤若年者の希望保有に影響している要因

希望を抱く感覚や情動としての「感情」、望ましい未来の結果の知覚としての「認知」、希望をもつ行為の方向性としての「行動的」、「希望を生み出す精神的な豊かさとしての「豊かさ」、希望を生み出す精神的・手段的指示が得られる人的資源としての「対人関係」、希望の発生と希望の維持・促進につながるものとしての「活力」において相関係数を算出したところ、「明るさ」(α =.26)「行動的」(α =.76)「認知」(α =.12)「豊かさ」(α =.03)「活力」(α =.88)「対人関係」(α =.91) の結果が得られた。

したがって、希望を生み出す精神的・手段的指示が得られる人的手段としての「対人関

係」、（相関係数α＝.91）、希望の発生と希望の維持・促進につながるものとしての「活力」、（相関係数α＝.88）が希望保有に影響を与えている要因として、有意な傾向を示していることが明らかとなった。

(3) 早期離職の可能性について

就職 1 年後において、希望保有における士気の状態を先行研究より職場のモラール尺度を用いて検討を行った。状況要因である「仕事の特性」、「職場環境」、「上司のマネジメント」、「人事運営」、「組織運営」の30項目のうち、「仕事のやりがい」、「職場の働きがい」、「上司への信頼度」、「人事運営への満足度」、「組織運営への満足度」の 5 因子が抽出できた。

インタビュー調査から希望を保有しているポジティブな未来志向をもっている若年者は、希望が失望しても、つらく苦労した経験をふまえて次への新しい希望へと柔軟に修正できること明らかとなり、自分のことを評価してくれたり期待してくれたりする人や自分と異なる情報をもっている人とのつながりをもつことで、早期離職の予防につながることが確認できた。

希望を保有していないと回答した対象者の多くが将来につながる苦労を否定し、苦労を乗り越えて報われるという体験をしておらず、困難な状況に出ると苦労を耐えられなかったり、苦労に直面するのを避けようとしたりする傾向があり、離職に影響を与えていることが確認できた。また、ネガティブな未来志向をもっている対象者についても早期離職の可能性があることも示された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 松尾美香、若年者がもつ希望とキャリア選択との関連―若年者に対するアンケート調査結果の分析―、愛媛女子短期大学紀要第 22 号、査読有、2010、97―107
② 松尾美香、田中卓也、若年者における希望をもつキャリア選択に関する研究―希望の尺度作成の検討―、愛媛女子短期大学紀要第 22 号、査読有、2010、109-116

〔学会発表〕（計 3 件）

① 松尾美香、希望をもつ若者のキャリに関する研究、日本教師教育学会、福井大学、2011
② 松尾美香、学校から仕事へ移行する若者の希望に関する研究、日本教師教育学会、日本大学、2010
③ 松尾美香、若年者の希望とキャリアとの関連、中国四国教育学会、香川大学、2010

〔図書〕（計 3 件）

① 松尾美香他、小学校教育（初等教育）におけるキャリア教育のあり方と展望、2014、190
② 松尾美香他、小学校教諭への道のり、2012、152
③ 松尾美香他、保育出版、キャリア教育の進展、2010、202